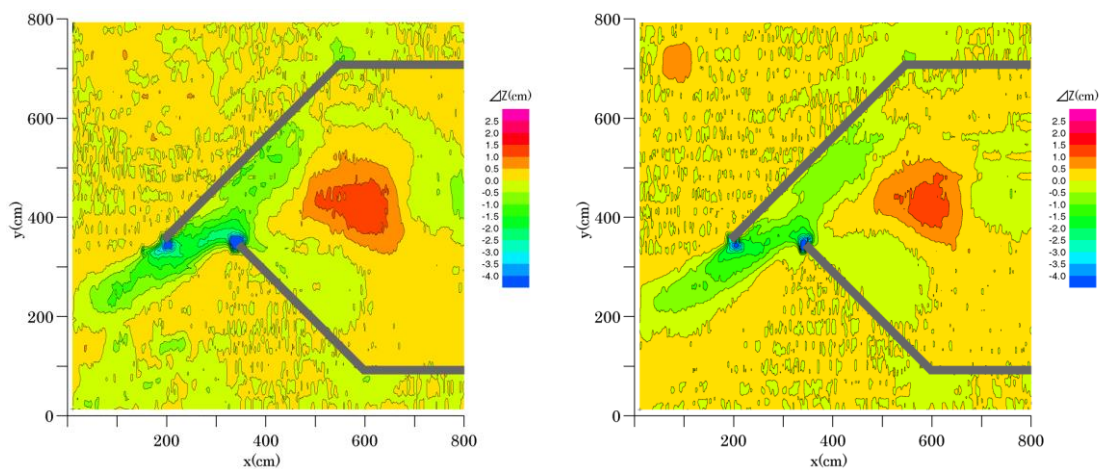
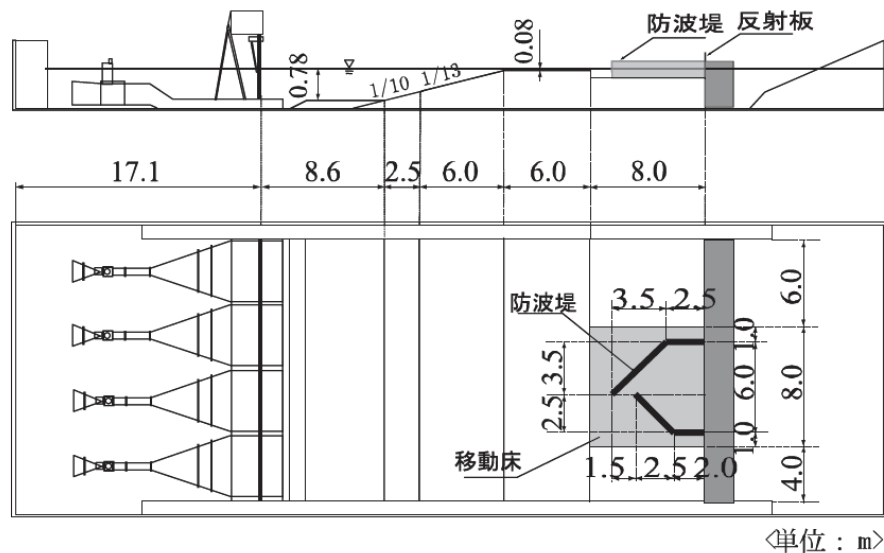


津波による港湾内の流況と地形変化に関する実験データ

藤井ら（2009）による津波に伴う港湾内の流況と地形変化に関する水理模型実験のデータの概要を以下に示す．

【実験の概要】

実験には、図-1 に示す大型平面水槽（長さ 58 m，幅 20 m，深さ 1.6m）が用いられ，港湾を模擬した防波堤（厚さ 0.15m）と護岸を設置して，固定床実験（水位・流速を計測），移動床実験（海底地形変化量を計測）が行われた．防波堤・護岸は，津波が越流しない高さである．移動床実験に用いられた砂は中央粒径 0.08 mm で，造波した津波条件は周期 60 s の半周期分，片振幅 6 cm である．得られた地形変化量を図-2 に示す．



【ファイルの説明】

1. 固定床実験

☐ BC_Unmovable_AA3.dat

- ・ 沖合（図-3 の AA3）における水位（H）・流速（U）時系列

☐ Unmovable_H.dat

- ・ 港湾内の 9 点（図-4 の A04~H07）における水位（H）の時系列

☐ Unmovable_UV.dat

- ・ 港湾内の 9 点（図-4 の A04~H07）における流速（U，V）の時系列

2. 移動床実験

☐ BC_Movable_H2.dat

- ・ 沖合（図-3 の H2）における水位（H）時系列

☐ Movable_Bedchange_n.xlsx

- ・ 港湾内の 0.5m 間隔（図-5 の丸印）の地形変化量
- ・ n：繰り返し回数

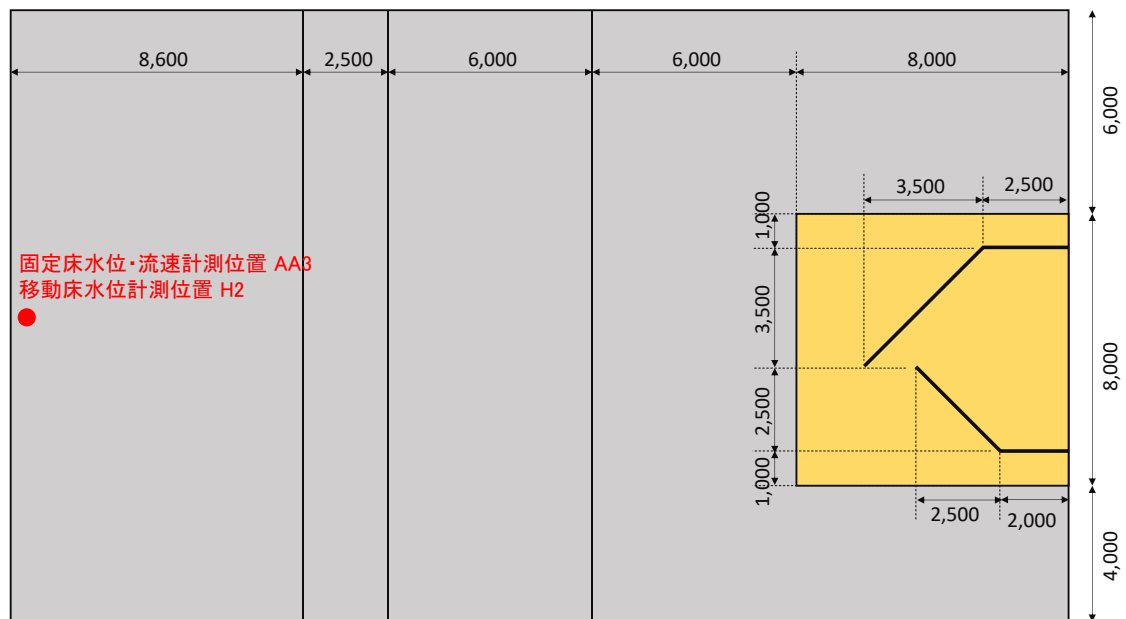


図-3 沖合の水理量計測位置（固定床実験・移動床実験）

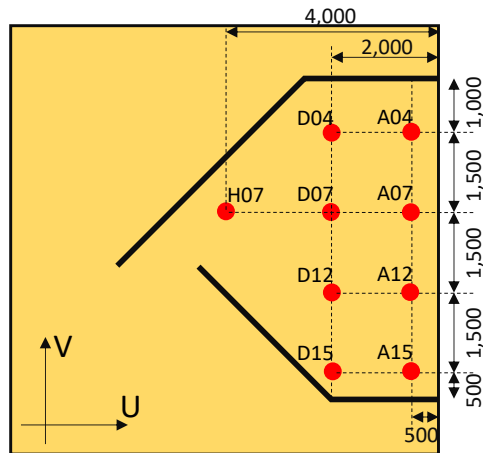


図-4 水位・流速データの計測位置（固定床実験）

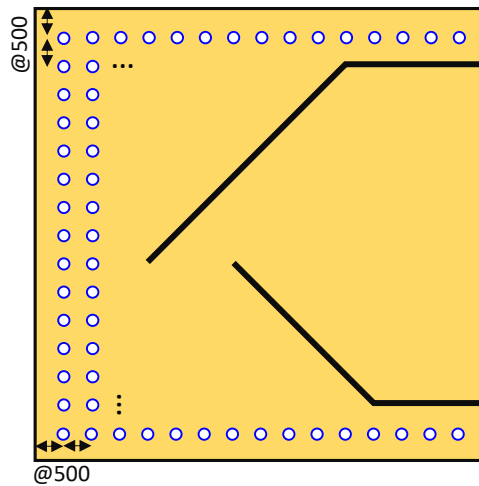


図-5 地形変化量データの計測位置（移動床実験）

【参考文献】

藤井直樹・池野正明・榊山勉・松山昌史・高尾誠・向原健：津波による港湾内の流況と地形変化に関する実験およびその数値計算，土木学会論文集 B2（海岸工学），Vol.B2-65，No.1，pp.291-295，2009.